

第23回 種子島ロケットコンテスト大会
【参加者向け要領】



2026 年7月

1. 目的

手作りによるモデルロケットや衛星機能モデルを開発・製作し、打上げることで物作りの奥深さ、面白さを体験することを通して我が国の宇宙開発利用に向けた人材育成を行うとともに、宇宙開発利用の普及啓発や地域の活性化を目的とする。

2 大会要項

2-1. 大会名称

第23回種子島ロケットコンテスト大会

2-2. 主催

種子島ロケットコンテスト大会実行委員会

宇宙航空研究開発機構(JAXA) / 九州航空宇宙開発推進協議会
鹿児島県宇宙開発促進協議会 / 南種子町宇宙開発推進協力会
久留米工業大学

2-3. 後援（予定）

鹿児島県 / 南種子町 / 一般社団法人九州経済連合会

NPO法人大学宇宙工学コンソーシアム / 一般社団法人日本航空宇宙学会西部支部

一般社団法人日本機械学会宇宙工学部門 / 公益財団法人日本宇宙少年団

2-4. 協賛（第22回大会実績 順不同）

株式会社 IHI エアロスペース / 株式会社アंकシステムズ / 宇宙技術開発株式会社
川崎重工業株式会社 / 株式会社コスモテック / 三伸工業株式会社 / 種子島観光協会
MHI エアロテクノロジーズ株式会社 / 一般財団法人日本宇宙フォーラム
日本エア・リキード合同会社 / 三菱重工業株式会社 / 有人宇宙システム株式会社
株式会社トヨタレンタリース鹿児島 / 株式会社江藤製作所 / 飛鳥電気株式会社

2-5. 協力（五十音順）

愛知工科大学宇宙システム研究所

鹿児島大学理工学研究科工学専攻機械工学プログラム

九州工業大学大学院工学研究院宇宙システム工学研究系

東京都立大学システムデザイン学部航空宇宙システム工学科

2-6. 開催日時

2027年3月4日(木)～2027年3月8日(月)

日 時	イベント名
2027年3月4日(木) 14:00 - 19:00	エントリー受付・機体審査
2027年3月5日(金) 9:00 - 19:00	開会式、技術発表会・機体審査(再審査)
2027年3月6日(土) 9:00 - 17:00	ロケットコンテスト競技 1 日目
2027年3月7日(日) 9:00 - 19:30	ロケットコンテスト競技 2 日目・表彰式
2027年3月8日(月) 9:00 - 12:00	講演会・ワークショップ(技術交流会含む)

※スケジュール詳細は3-5を参照すること

2-7. 開催地

(1)ロケットコンテスト競技

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)種子島宇宙センターグラウンド
(〒891-3793 鹿児島県熊毛郡南種子町大字荃永字麻津)
(予備会場:前之浜海浜公園)

(2)各イベント会場

エ ン ト リ ー 受 付:農業者トレーニングセンター(以下「トレセン」という)
機 体 審 査:トレセン
開 会 式:トレセン
技 術 発 表 会:①ロケット部門:福祉センター 大ホール
②CanSat 部門:トレセン
表 彰 式:トレセン
講 演 会:トレセン
ワ ー ク シ ョ ッ プ:トレセン

【周知事項】

- ・学生間の飲食を伴う交流会は、実施をしない。
- ・ワークショップは、トレセンにおいて技術交流会を実施する。(第22回大会と同様の形態)
協賛企業の方々にも、ワークショップへの参加を呼びかける。
- ・競技日と JAXA によるロケットの打上げ又は開発試験等が重なった場合、競技は全て予備会場で実施する。または、企画書記載の雨天スケジュールを適用するなど、一部スケジュールを変更する可能性がある。

2-8. 開催内容

名称		種目番号	内容
ロケットコンテスト競技	ロケット部門	1	滞空・定点回収
		2	パイロード有翼滞空
		3	高度
		4	インテリジェントロケット
	CanSat 部門	5	自律制御カムバック
		6	遠隔制御カムバック
		7	オリジナルミッション
ロケット部門／CanSat 部門 技術発表会			ロケット部門・CanSat 部門に分かれて作品についてプレゼンテーションを行い、資料の出来、発表の仕方を評価する。

※競技詳細は別紙1を参照すること

2-9. 参加資格

参加資格は以下のとおりとする。また参加者は表1のいずれかに分類され、それに応じて参加費などに差異がでるため、各自、分類を確認すること。

参加できる競技は連名・代表者も含めて全種目を通して1人につき2競技までとする。また、チーム代表者として応募できるのは 全種目を通して1人につき1競技までとする。

(1)ロケットコンテスト

①日本国内の高等学校、高等専門学校、大学の学生

②一般

※高校生及び未成年者については、大会期間中、教員または保護者が同行すること。

表1. 参加者の分類

分類	参加者	詳細
分類1	ロケットコンテスト参加者	技術発表会、競技、表彰式、交流会、講演会、WSに参加する者
分類2	参加チームの引率者 (指導者)	引率者(指導者)で技術発表会、競技、表彰式、講演会、ワークショップに参加する者
分類3	イベント参加者	競技以外(技術発表会、表彰式、講演会、ワークショップ)に参加する者

2-10. 募集チーム数(競技部門ごとにチーム数の制限あり)

ロケット部門 : 50チーム(R7 申込チーム数 78)

CanSat部門: 50チーム(R7 申込チーム数 64)

※第22回大会の申込チーム数より算出

競技の円滑な運営のために参加チーム数の上限を設けており、申し込み多数の場合には設計計画書に基づき、事前に書類審査を行う。また、競技の安全な実施のために、この設計計画書に基づいて安全面などの審査も行い、疑義がある場合は改善を求めるか、参加受付を断る場合がある。

設計計画書はエントリー受付・機体審査の時の照合資料及び技術発表会の参考資料としても用いるほか、出場チームの同意が得られた場合は、設計計画書を公開する。

2-11. 参加料

参加料は表2のとおり。

(表2. 参加料)

分類	参加者	参加料(1人あたり)
分類1	ロケットコンテスト参加者	(学生)2,000円 (一般)3,500円
分類2	参加チームの引率者(指導者)	3,500円
分類3	イベント参加者	(学生)2,000円 (一般)3,500円

※参加料にはイベント保険料、参加記念バッグ代等が含まれる。

※製作費、搬入搬出にかかる費用、旅費等については参加者負担とする。

2-12. 申込受付期間

競技者(分類1、分類2)

参加申込フォームより申し込みを行うこと。

また、同フォームに設計計画書等を添付して提出すること。

2026年7月15日(水)から10月15日(木)まで

イベント参加者(分類3)

参加申込フォームより見学申し込みを行うこと。

2026年7月15日(水)から12月4日(金)まで

※参加申込フォーム URL は、大会サイトに掲載する。

※締め切り日時を過ぎた申し込みは、一切受け付けない。

※当日の飛び込み参加は認めない。

※やむを得ず申し込みをキャンセルする場合は、必ず事務局(0997-26-1111)まで連絡をすること。

※落選チームから合格チームへの編入に関しては、別途募集を行う。

2-13. 申込方法及び支払方法

(1)本大会公式HP掲載の設計計画書の書式をダウンロードのうえ、参加申込フォームより、申し込みを行うこと。

※設計計画書を作成する際、注意事項を必ず遵守すること。

(2)書類審査は技術部会で行う。書類審査の評価は点数制とし以下の項目を中心に評価を行い、合格チーム名をロケットコンテスト大会公式HP及び公式 SNS を通じて11月中旬に公表する。

※技術評価(5項目)

- ・アイデアが独創的であるか
- ・設計が妥当であるか
- ・安全に配慮した設計であるか(墜落や紛失の対策)
- ・技術的に高度なことにチャレンジしているか
- ・設計・製作・動作試験について、大会までに無理なく完成できるスケジュールであるか

※書類審査に落ちた場合でも、合格チームへの編入または、ロケットコンテスト競技以外のイベント(分類3)への参加を認める。編入方法については別途案内を行う。

(3)募集チーム数を超えての参加申込があった場合は、書類審査を行う。

11月中旬に審査結果を公表するので、合格発表後、合格したチームは参加料を[2027年1月29日\(金\)まで](#)に必ず下記口座へ振込むこと。

また、見学者の方は参加申込終了後、参加料を上記期限までに下記口座へ振込むこと。

参加料は申込チームごとの合算した金額を必ずチーム代表者名で振込むこと。

取引金融機関 種子屋久農業協同組合 南種子支所 普通

口座番号 0063899

口座名 種子島ロケットコンテスト大会実行委員会 委員長 小園 裕康

※参加料は、参加を辞退された場合でも返金対応は行わない。

2-14. 表彰

(1)ロケット部門 種目番号1(滞空・定点回収):優勝、準優勝、3位

(2)ロケット部門 種目番号2(パイロード有翼滞空):優勝、準優勝、3位

(3)ロケット部門 種目番号3(高度):優勝、準優勝、3位

(4)ロケット部門 種目番号4(インテリジェントロケット):優勝、準優勝、3位

(5)CanSat部門 種目番号5(自律制御カムバック):優勝、準優勝、3位

(6)CanSat部門 種目番号6(遠隔制御カムバック):優勝、準優勝、3位

(7)CanSat部門 種目番号7(オリジナルミッション):優勝、準優勝、3位

(8)ロケットコンテスト大賞:各部門で優勝したモデルロケット・CanSat デザインのうち、
次回以降の参加者が目指すにふさわしいものに与える。

(9)審査員特別賞(スポンサー企業賞)

※各種目の優勝者にトロフィー、賞状、副賞を授与する。準優勝者及び3位入賞者に賞状を授与する。出場者数や競技結果によっては、賞の「該当なし」もある。

※ロケットコンテスト大賞の受賞者にトロフィー、賞状を授与する。

※審査員特別賞(企業賞)の受賞者に賞状、副賞を授与する。

2-15. その他

(1)競技は日本モデルロケット協会の自主消費基準(別紙3)に従い、風速8m/s 以下で実施する。

(2)気象条件により競技が実施できない場合または、競技を終えられなかった場合については、技術発表会の評価で順位を決定する。

(3)競技順は、事務局で無作為に決定し、2月中旬までに大会公式サイトにて告知する。

(4)機体審査時に、設計計画書類審査以降の変更の有無を申告すること。変更がある場合は、朱記訂正した計画書、または変更点を説明した書類を提出して、変更箇所が判るようにすること。変更書類は、電子データでのみ提出受付を行う。提出先 URL は、別途周知を行う。

(5)機体審査において不備の指摘を受けた場合は、処置を施して再度機体審査を受けること。審査員が競技に耐えないと判断したものについては、当日の飛行を見合わせる。

(6)大会期間中は受付時に配布するイベントパス(ネーム)を見える位置に携帯すること。

(7)参加条件として、別紙1に記載している競技種目毎の内容及び条件に加え、下記事項についても同意しなければならない。

① 参加者は大会実行委員会(以下、「本会」という。)が用意するイベント保険への加入を義務付けるものとする。(『参加料』の中に保険料が含まれる。)

② 各チームはメンバー1名を運営スタッフとし、種子島ロケットコンテスト大会(以下、「本大会」という。)の競技に係る設営及び運営に協力することとする。

また、各会場の撤収は、現地スタッフの指示のもと、参加者全員で行うことを原則とする。

③ (学生)傷害保険に加入し、所属する学校の教員を指導者として本会事務局へ報告し、その教員の指導の下に作業を行うこと。

④ ロケット部門(種目番号1~4)については、下記を参加の条件とする。

・応募するチームで、開発中及び本大会当日の模型ロケットの打ち上げを行うものは、使用するモデルロケットエンジンにおいて法規上必要とされる日本モデルロケット協会のライセンスを取得し、参加申込フォームにコピーを添付して本会事務局へ提出すること。

・本大会公式 HP(URL: <https://jaxa-rocket-contest.jp/>)に掲載の本会が定める安全審査基準を参考にロケットを製作すること。

・日本モデルロケット協会規定の「モデルロケットの自主消費基準」を順守すること。

・事前に機体の試射を行うことを推奨する。ロケット部門種目2:パイロード有翼滞空、種目3:高度については機体の試射を行い、参加申し込み締め切り日(10月15日)までに試射の様子を撮影した動画を審査員が確認する。ただし、動画は発射から頂点を経て着地まで映像で機体を確認できるものに限る。

機体審査(3月4日)の際に、設計計画書提出時の機体形状から変更が認められる場合、変更後の試射の様子を撮影した動画を審査員が確認する。飛行の安全性が確認できない場合、当日の打上げを行わない。

なお、種目1:滞空・定点回収、種目4:インテリジェントロケットにおいても、書類審査後に追加で試射動画の提出を求める場合がある。

⑤ 開発中の事故については、本会は一切その責任を負わない。また、大会当日のモデルロケットの打ち上げ及び CanSat 放出についても各自の責任において行うこと。本会は、参加者が製作したモデルロケットを発射する場及び大型クレーンから CanSat 放出を行う場を提供するだけである。

3 大会運営

3-1. 専門部会

技術部会

担当	所属	役職	氏名
部会長 CanSat	秋田大学大学院理工学研究科 共同サステナブル工学専攻	講師	平山 寛
ロケット	久留米工業大学	副学長	麻生 茂
CanSat	愛知工科大学宇宙システム研究所 Crest Astra Japan 株式会社	客員研究員 特別顧問	西尾 正則
ロケット	鹿児島大学理工学研究科 工学専攻機械工学プログラム	教授	片野田 洋
ロケット	元日本文理大学/元三菱重工	—	中川 稔彦
ロケット	鹿児島ハイブリッドロケット研究会	副代表	高口 裕芝
CanSat	九州工業大学大学院工学研究院 宇宙システム工学研究系	教授	北村 健太郎
CanSat	東京都立大学システムデザイン学部 航空宇宙システム工学科	教授	佐原 宏典
ロケット	JAXA 宇宙輸送技術部門 鹿児島宇宙センター 射場技術開発ユニット	研究開発員	明田 貴裕
ロケット	九州大学工学研究院航空宇宙工学部門	教授	外本 伸治

3-2. 予算

本大会にかかわる予算は、参加料、九州航空宇宙開発推進協議会、鹿児島県宇宙開発促進協議会、南種子町宇宙開発推進協力会の負担金及び協賛企業からの協賛金による。本会において承認された、令和8年度予算書に基づき、適切な予算執行を行う。

3-3. PR

(1)大会サイトによるPR

(株)アंकシステムズ制作の本大会公式サイト(<https://jaxa-rocket-contest.jp/>)に本大会情報を掲載し、参加者の募集を行う。JAXA、九航協、鹿児島県、南種子町、日本宇宙少年団本部、JAXA宇宙教育センター、これまでに参加経験のある大学に同ホームページへのリンクを依頼して参加を呼びかける。

(2)UNISECを通じて

UNISECに後援を依頼し、大会参加の呼びかけを総会・ワークショップにて行う。

(3)その他

後援いただく団体より広報をお願いする。

3-4. 今後のスケジュール

2026 年 7 月	参加者・見学者 募集開始(～10/15)	
10 月	参加者募集締切(10/15)	競技者(10/15 締切) イベント参加者(12/4 締切)
11 月	書類審査結果の公表	11 月中旬予定
2027 年 1 月	参加料支払い	支払い期限(1/29)
3 月	種子島ロケットコンテスト大会開催	

3-5. 大会当日のスケジュール

基本スケジュール

日程	時間	内容	場所
2027 年 3 月 4 日(木)	14:00 - 18:00 14:00 - 19:00	エントリー受付 機体審査	トレセン
5 日(金)	09:00 - 09:10	開会式	トレセン
	09:10 - 09:15	審査員紹介	トレセン
	09:30 - 17:00	技術発表会	ロケット部門(福祉センター大ホール) CanSat 部門(トレセン)
	17:00 - 19:00	機体審査【再審査】	トレセン
6 日(土)	09:00 - 17:00	ロケットコンテスト 【競技 1 日目】	JAXA TNSC 竹崎グラウンド
7 日(日)	09:00 - 15:00	ロケットコンテスト 【競技 2 日目】	JAXA TNSC 竹崎グラウンド
	18:00 - 19:30	表彰式	トレセン
8 日(月)	09:00 - 09:50	講演会	トレセン
	10:10 - 12:00	ワークショップ	トレセン
	12:00	解散	

(備考)

※不可抗力による場合を除き、4日(木)のエントリー受付時間(14:00-18:00)に間に合わない参加チームは、本大会への参加を認めない。

※4日(木)の機体審査時間に間に合わなかったチームや合格しなかったチームは、5日(金) 17:00 からの機体再審査を必ず受けること。

※4日(木)の機体審査を合格したチームは再審査の必要はない。

※6日(土)、7日(日)の競技当日は、各チームの運営スタッフは 8:00 に竹崎グラウンドに集合すること。変更等が生じた場合はメーリングリスト等で周知する。

※ロケット部門(種目番号1・2・3・4)と CanSat 部門(種目番号5・6・7)は競技エリア(別紙2参照)をそれぞれ設け、同時並行で競技を実施する。

※本大会で使用するJAXA種子島宇宙センター竹崎グラウンドが使用できない場合、予備会場の前之浜海浜公園を使用する。

※天候判断は別紙4に基づいて行う。

※ロケットコンテスト大会期間中に競技を行うことができなかった種目については、技術発表会の結果を基に順位を決定する。

※当日の天候により、競技開始時間を前後に移動させることがある。周知については、メーリングリストや大会 SNS 等で周知する。

雨天スケジュール

日程	時間	内容	場所
2027 年 3 月 4 日(木)	14:00 - 18:00 14:00 - 19:00	エントリー受付 機体審査	トレセン
5 日(金)	09:00 - 09:10	開会式	トレセン
	09:10 - 09:15	審査員紹介	トレセン
	09:30 - 17:00	技術発表会	ロケット部門(福祉センター大ホール) CanSat 部門(トレセン)
	17:00 - 19:00	機体審査【再審査】	トレセン
6 日(土)	6 日(土)が雨天の場合		7 日(日)が雨天の場合
	09:00-12:00	講演会 ワークショップ	トレセン
7 日(日)	09:00-17:00	ロケットコンテスト 競技 1 日目	TNSC 竹崎グラウンド
	09:00-12:00	講演会 ワークショップ	トレセン
8 日(月)	18:00-19:30	表彰式(※競技を実施した種目のみ)	トレセン
	18:00-19:30	表彰式(※競技を実施した種目のみ)	トレセン
8 日(月)	09:00-14:30	ロケットコンテスト 競技 2 日目	TNSC 竹崎グラウンド
	09:00-14:30	ロケットコンテスト 競技 2 日目	TNSC 竹崎グラウンド
	14:30	解散	
	14:30	解散	

4 参加者向け情報

4-1. 宿泊先

各自(高校生等は代表者)で予約手配を行うこと。※事務局で手配は行わない。

【町内の主な宿泊施設一覧】

<http://www.town.minamitanekagoshima.jp/sightseeing/accommodation.html>

4-2. 飲食店

夕食で町内の飲食店を利用される際は、事前の予約を推奨する。

※急な大人数の来店など、飲食店によっては対応が難しい可能性がある。

【町内の主な飲食店一覧】

<http://www.town.minamitanekagoshima.jp/sightseeing/accommodation.html>

4-3. 参加費助成

第23回種子島ロケットコンテスト大会の出場者で、大会期間中(3月4日～3月8日の間)、南種子町内の宿泊施設に宿泊された方に南種子町より参加費の助成を行う予定としている。

※詳細については、別紙8を参照すること。

4-4. 交通手段



【飛行機】

鹿児島空港から種子島空港 (35分)

【航路】

・フェリー

鹿児島から種子島「西之表港」(3時間30分～40分)

・ジェットfoil

鹿児島「南埠頭」から種子島「西之表港」(1時間35分)

【陸路】

・西之表港からバスで (1時間10分)

・西之表港からレンタカー、タクシーで (50分)

・種子島空港から予約型乗合タクシーで (40分)

・種子島空港からレンタカー、タクシーで (40分)

4-5. 観光について

南種子町ホームページ <http://www.town.minamitanekagoshima.jp/>

観光ガイドページ <http://www.town.minamitanekagoshima.jp/sightseeing.html>

4-6. 気候について

・少雨でも競技を実施する可能性があるため、雨天時の対策とし、各自雨合羽などの雨具を携行すること。

・各自防寒対策をおこなうこと。また、天気によって、日焼け防止対策を行うことも推奨する。

5. 諸注意事項

・昼食は各自で手配すること。事務局では準備は行わない。

・貴重品は、各個人の責任で管理すること。

・ゴミは、各自で必ず持ち帰ること。

(1)福祉センターの利用について

①福祉センター内での喫煙・飲食・機体修正等是不行ないこと。

(2)農業者トレーニングセンターの利用について

①農業者トレーニングセンター内での飲食は絶対に行わないこと。

②喫煙は指定された場所以外で絶対に行わないこと。

(3)種子島宇宙センターの利用について

①種子島宇宙センター内は一般の方も来場するため、他の利用者の方に迷惑のかからないよう、配慮すること。

②ロケットコンテストを開催する竹崎グラウンドは全面禁煙のため、喫煙は不行ないこと。

※宇宙科学技術館の指定喫煙スペースでのみ、行うこと。

③種子島宇宙センターの施設にみだりに立ち入らないこと。

(4)駐車場について

①大会駐車場として設けられている箇所以外への駐車は、絶対に行わないこと。

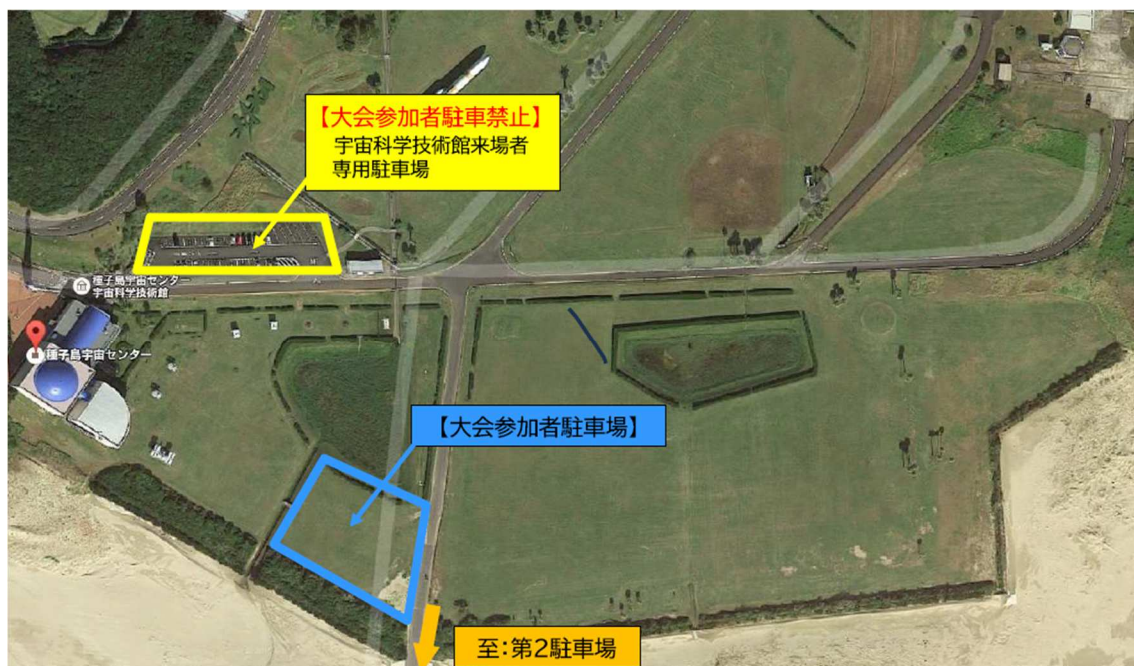
※種子島宇宙センター内の駐車スペースについて(下記図を参照)

・宇宙科学技術館来館者用駐車場への駐車は絶対に行わない。

・CanSat 部門会場前の駐車場は、CanSat やモデルロケットの落下物が車両に当たる可能性があるが、本大会事務局では責任を負い兼ねる。

落下物による車両の損傷等を懸念される場合は、竹崎展望台前の駐車場を利用すること。

図1. 種子島宇宙センター駐車場



(5)競技の運営について

①遅刻や機体が完成していないなど、参加チームの都合により、スケジュール上の打上げ／投下(以下、「試技」という。)時刻より10分以上遅れた場合は、「審査対象外」とする。ただし、2-14(9)で定める賞は、対象となる。

改めての試技については、実行委員会が定める日時に行うものとし、再設定したスケジュールで試技できない場合は、失格とする。

なお、該当チームが多く出た場合は、必ずしも試技のスケジュール再設定が約束されるものではない。

②予定より早く競技進行できた場合や、上記①のチームがいた場合、次試技チームの了承を得て、試技開始予定時刻を繰り上げて再設定することがある。そのため、生じた空き時間に繰り上げ希望するチームがあれば試技の順序を入れ替えることや、①のチームの試技を行うことがある。(つまり、スケジュールより進行が遅かった場合、遅刻による失格は発生しない)

③運営をスムーズにおこなうため、競技スケジュールに記載された招集時間の5分前には必ず各部門競技会場の参加学生待機場所にて待機をしておくこと。

(6)安全上のお願い

①競技中は運営スタッフの指示に従うこと。

②競技者を識別するため、また、安全確保のため、ヘルメットを着用すること。

※事務局で準備をするヘルメットを着用することも可。

③見学者は、道路の歩道からのみ見学を許可する。

(7)その他

競技中に体調が悪くなった場合は、その旨速やかに大会事務局へ申し出ること。

【お問い合わせ先】

・参加者向けに大会に関する情報伝達手段として、専用のメーリングリストを作成し、別紙7に定めるメーリングリストの運用規則に沿って運用をおこなう。

・大会期間中に本会事務局で使用するレンタル携帯電話の番号は下記のとおり。

電話番号:〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇(TBD)

使用期間:2027年3月4日～8日

大会期間中、問い合わせ等はこの番号へ連絡をすること。また、この番号からの着信を拒否されないよう、各自の携帯電話にて設定をすること。

6. 安全対策方針

(1)機体の打上げ場所から参加者までの保安距離を確保するため、別紙2記載のように、打上げ場所を竹崎グラウンドの海岸寄りに変更する。ただし、当日の天候状況等により打上げ場所を移動させる事もある。

(2)ロケット部門種目2:パイロード有翼滞空、種目3:高度、種目4:インテリジェントロケットの競技中は、機体が地面に着地し安全が確認されるまで、CanSat競技を一時中断する。

(3)モデルロケットの自主消費基準を順守し、ロケットの打ち上げから機体が地面に着地するまで本部テント及び保安要員が周囲へ注意喚起を行う。

(4)ロケット部門種目2:パイロード有翼滞空、種目3:高度競技については、機体の試射を行い、参加申し込み締め切り日(10月15日)までに試射の様子を撮影した動画を審査員が確認する。ただし、動画は発射から頂点を経て着地まで映像で機体を確認できるものに限る。また機体審査(3月4日)の際に、設計計画書提出時の機体形状から変更が認められる場合、変更後の試射の様子を撮影した動画を審査員が確認する。飛行の安全性が確認できない場合、当日の打上げを行わない。

(5)競技日当日の保安責任者を技術部会から1名、補佐役に大学学生スタッフを1名充てる。

(6)ロケット部門の全ての種目において、機体審査時に審査員が飛行の安全が確認できないと判断した場合は修正を求める。もし、その修正に応じない場合は当日の打上げを行わない。

7. 緊急時対応計画

目的: 事故発生時、より迅速な対応をするためのマニュアルである。

① 緊急連絡先リスト

種子島宇宙センター 総合防災監視所 050-3362-3385

緊急病院(内科、外科) 公立種子島病院(0997-26-1230)

警察署 110(鹿児島県警察本部)

消防署 0997-26-0119(熊毛地区消防組合南種子分遣所)

② 施設との緊急対応

・種子島宇宙センター

緊急救命道具保管場所: 宇宙科学技術館エントランスホール

AED 設置場所: 宇宙科学技術館エントランスホール

救急車誘導ルート: 宇宙科学技術館駐車場または竹崎グラウンドに誘導。

総合防災監視所への連絡も並行する。

緊急避難経路: 竹崎芝生広場 H-II ロケット実物大模型裏の通路を通り、竹崎管理棟下の駐車場に避難

消火器設置場所: 竹崎グラウンド本部テント(コンテスト当日限定)

・農業者トレーニングセンター

緊急救命道具保管場所: なし

AED 設置場所: ロビー

施設管理事務所: 社会教育課社会体育係(0997-26-1111(内線 274))

救急車誘導ルート: 農業者トレーニングセンター玄関前

緊急避難経路: 前之峯陸上競技場に避難

消火器設置場所: 玄関左右、卓球場、2階通路左右、舞台裏2階、アリーナ左奥
1階階段前事務室

・福祉センター

緊急救命道具保管場所: なし

AED 設置場所: なし

施設管理事務所: 南種子町町民福祉課福祉年金係(0997-26-1111(内線 181))

救急車誘導ルート: 福祉センター前駐車場、若しくは生きがい活動室入口横に誘導

緊急避難経路: 前之峯陸上競技場に避難

消火器設置場所: 玄関ホールトイレ前、機械室内、1F 台所前通路、1F 生涯活動室前
1F 舞台上左右、2F 舞台上左右、客席左右、2F 小会議室、2F 階段上

③ 緊急対応マニュアル

連絡経路: 第23回ロケットコンテスト緊急連絡体制表(TBD)のとおり連絡すること。

別紙1 競技内容

1. 各種目共通の注意事項

- 用意した複数の回収装置(パラシュート、ストリーマ)、CanSatの車輪などから、当日の条件をみて最適なものを選んでよい。その場合、各パターンで機体審査をうけ、設計条件や安全基準を満たすこと。
- 安全のため、降下速度は 5m/s 以下であること。当日にパラシュートに穴をあけたり、穴を大きくする場合も、降下速度が 5m/s 以下の範囲で認める。
 - ロケット部門の高度競技においては、当日の上空の風速によっては、安全を確保することを前提に降下速度の条件を緩和することがあるので、複数の回収装置を準備することが望ましい。
- 無人航空機の規制について
 - すべての競技において、ペイロードの動力飛行は禁止する。
 - 滑空機であっても、航空法に従い「無人航空機」として登録されリモート ID 機能を搭載した機体、または重量 100g未満の「模型航空機」に分類される機体のみ、飛行中の遠隔操縦または自動操縦を認める。
 - パラグライダー型の滑空機は、重量 100g 以上でも無人航空機登録の必要がなく、飛行中の操縦を行ってよい。
- 同一機体で複数の種目への出場は認めない。同一設計でも別機体を用意するならよい。
 - 過去に CanSat 部門でソフトウェアの変更や装置の付加のみで別種目に出る例が見られたが認めない。必ず本体を別機体にすること。

2. ロケット部門共通の注意事項

- 使用するロケットエンジンについては、各種目の機体条件を参照すること。なお、国内在庫等の状況により使用するロケットエンジンが変更となる可能性もあるので留意すること。
- モデルロケットライセンスは、チーム全員でなくとも、発射操作を行う人が保有していればよい。
- チームが所属する学校等の敷地外で試射を行う場合、その管理者の許可を得ること。
- 競技用の機体に加え、予備の機体または、十分な予備部品や補修材料を用意すること。
- 種目3と4で搭載する高度測定装置と、種目3で搭載する電波式のビーコン装置について、詳細な形状・質量・仕様は公式 HP に掲載する。
 - 高度測定装置: Jolly Logic 製の AltimeterOne または Two(寸法 49×18×14.5mm, 質量 9.9g)か同等品を予定
 - ビーコン装置: (株)インタープロ製のハイビーコンスリム(寸法 90×23×6.4mm, 質量 13g)を予定
 - 高度計が落下時の衝撃に耐えられるよう、対策を講じること。落下衝撃等が原因で計測がされなかった場合は、失格とする。
 - 自作の発射台を用いる場合、エンジン以外でエネルギー(初速度)を与えてはいけない。セットしたときのロケットの底部の高さが地面から1m以内であること。ガイドは棒状でも筒状でもよく、長さに制限はない。設計計画書に自作発射台の設計も記載すること。

競技内容及び機体条件

部門名	種目 番号	競技 種目	競技内容	機体条件
ロケット部門	部門共通事項		- モデルロケットを打ち上げる際には、発射台の状態、保安区域内立ち入り者の有無、低空の飛行物の有無を指呼して危険のないことを確認して点火すること。また、点火操作を行う者は、周囲の者が確実にわかるように大声でカウントダウンして発射すること。これらを守らなかった場合はカウントダウンに入った段階で中断を指示する。中断後に2回目以降で正常な点火手順を踏んだ場合は、打上げは認めるが記録は無効とする。安全手順を守らず打上げた場合は失格とする。 - ロケット機体からパラシュートまたはストリーマが展開出来ない場合、もしくは落下途中に分離した場合は、降下速度 5m/s 以下を満足せず非安全となり得るため失格とする。	- エンジンは本会が用意する。 - エンジンを含めた機体の総飛行重量は使用するエンジンのメーカーである ESTES 社が定めている最大打上重量 Maximum Liftoff Weight を超えてはならない。 - 安全のため、機体及びパラシュートやストリーマは地上から認識ができるようにできるだけ目立つ色を塗ること。機体審査において目立つ色の塗装を施すように求められた場合、その指示に従わないときは競技に参加することができない。 - パラシュートを電気信号で展開する場合、安全のため、より信頼性の高いバックファイヤでも開くようにしておくこと。つまり、1つのパラシュートを電気とバックファイヤの2通りで開けるようにするか、別々のパラシュートを設けることになる。 - フィンのない機体は認めない。 - ロケット飛行中のフィンの舵角制御や、エンジンの推力方向制御は、種目1及び4で認める(種目4推奨)。制御が行われていない状態でも安定性の条件を満たすこと。種目2と3では認めない。
	1	滞空・定点回収	発射点から打ち上げ、できるだけ長く空中に滞在し、かつ射点にいかに近く着陸できるかを競う。 - 時間計測は、ロケットが動いた瞬間から地面に着地した瞬間まで。距離計測は、打ち上げ地点から着陸地点までの直線距離を計測する。 - 滞空時間と距離と発射時の風速をポイントに換算して合計点で評価する。配点は事前に公開する。 - マルチステージやクラスターロケットについては、最も上段(最後にエンジンに点火する機体)を計測の対象とする。 - 射点から半径 50m 以内の陸地で回収できなければ失格とする。	- 事務局が公表する A 型から C 型までのロケットエンジンを組み合わせ黒色火薬 20g 以下であればどんな組み合わせでもよい。 2 段式ロケットにおいては、2 段式ロケットの2つのエンジンを含む機体の総飛行重量が、1 段目のエンジンの最大打上重量 Maximum Liftoff Weight を超えてはならない。また、2 段目のロケットについてもエンジンを含む 2 段目の機体の総飛行重量が、2段目のエンジンの最大打上重量 Maximum Liftoff Weight を超えてはならない。 - 飛行中の制御を行ってもよいが、その場合は、本別紙1の第1節「無人航空機の規制について」に従うこと。種目4への応募も検討されたい。

部門名	種目 番号	競技 種目	競技内容	機体条件
ロケット部門	2	パイロード有翼滞空	パイロードに翼をつけ、放出から着地までの滞空時間の長さを競う。 ・射点から半径 250m 以内の陸地で回収できなければ失格とする。ロケットおよびパイロードは海に浮くこと。 ・高度は20m以上、上昇すること。(高度は、目印を決め監視員が目視にて確認する。)	・エンジンは C5-3、C6-3 のいずれか 1 本を使用する。 ・パイロード個数は1個(重量は 50g 以上)とする。 ・パイロードの翼がロケット飛行時のフィン兼ねてもよい。ただし、分離前に操舵制御を行ってはならない。 ・パイロードの翼を展開する場合、バックファイヤを用いた機構とすること。 ・パイロードにつける翼の形は自由。(固定翼のグライダーでも、回転翼のオートローテーションでもよい。) ・パラシュートやパラfoilは基本的に用いない。安全のための非常パラシュートの使用を認めるが、その場合、有翼滑空としての成績は非常パラシュート展開までの時間とする。 ・ロケット機体はパラシュートまたはストリーマで安全に着地させること。 ・パイロードの操縦を行う場合は本別紙1の第1節「無人航空機の規制について」に従うこと。 ・<u>参加申し込み締め切り日(10月15日)までに試射の様子を撮影した動画を審査員が確認する。また機体審査(3月4日)の際に、設計計画書提出時の機体形状から変更が認められる場合、変更後の試射の様子を撮影した動画を審査員が確認する。</u> ・<u>飛行の安全性が確認できない場合、当日の打上げを行わない。</u>

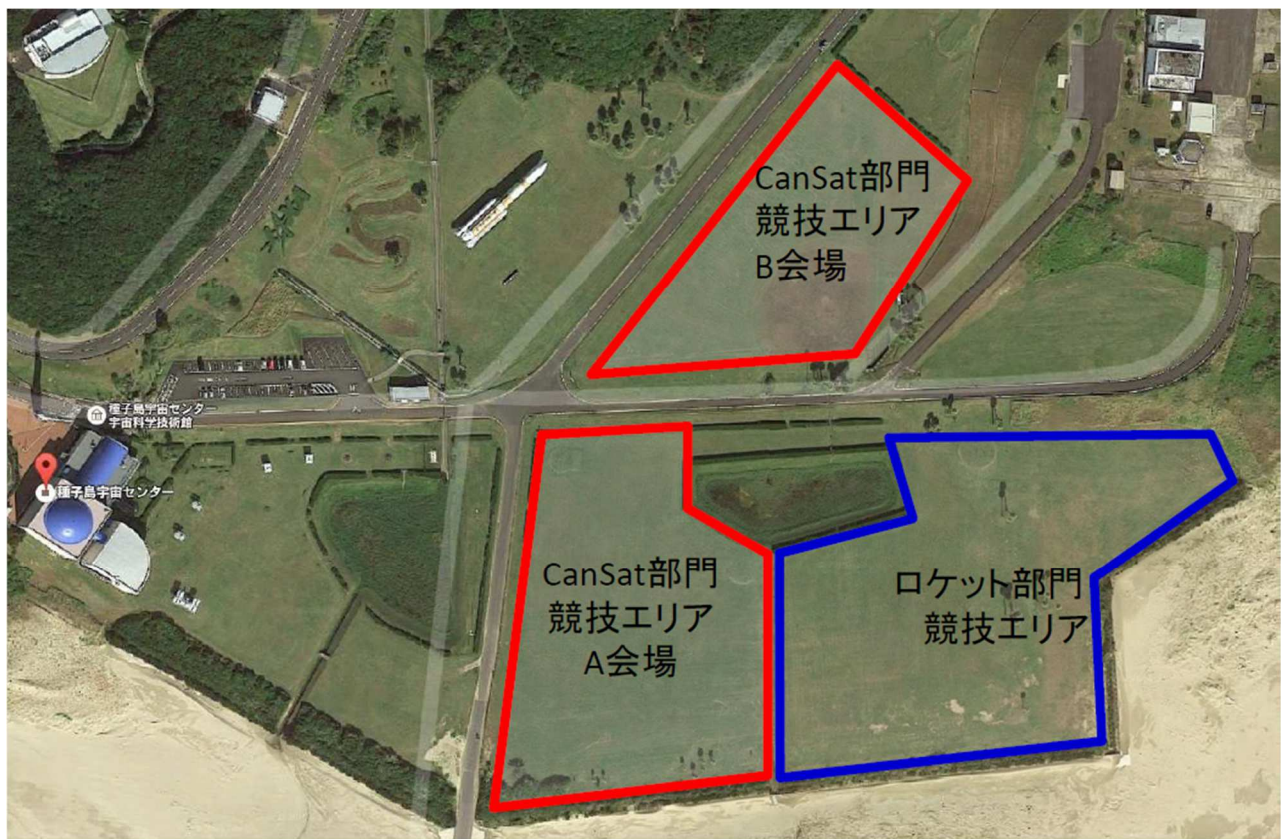
部門名	種目 番号	競技 種目	競技内容	機体条件
ロケット部門	3	高度部門	本会が用意する高度測定装置を搭載し、記録された最高到達高度で、できるだけ高く飛ぶことを競う。 ・射点から半径 250m 以内の陸地で回収できなければ失格とする。ロケットは海に浮くこと。 ・高度 600m 以上へは到達しないものとする。	・エンジンは、C5-3 を1本使用する。 ・機体は単段式とし、直径40mm 以上が連続して400mm 以上の長さであること。 ・機体のほぼ全体が目立つ色であること。 ・本会が用意する高度測定装置を搭載すること。 ・紛失対策として、本会で用意する電波式のビーコン搭載を義務づける。 ・エンジン・指定高度センサ・ビーコンを含めた機体の総飛行質量は、150g以上227g以下。 ・風が強いため、紛失しないための更なる対策を推奨する。 ・<u>参加申し込み締め切り日(10月15日)までに試射の様子を撮影した動画を審査員が確認する。また機体審査(3月4日)の際に、設計計画書提出時の機体形状から変更が認められる場合、変更後の試射の様子を撮影した動画を審査員が確認する。飛行の安全性が確認できない場合、当日の打上げを行わない。</u>

部門名	種目 番号	競技 種目	競技内容	機体条件
ロケット部門	4	インテリジェントロケット	機体を打ち上げて地上に戻るまでの過程で何らかのミッションを実現する。そのミッションの技術的なチャレンジ内容、高度な技術、達成度などを競う。 - 機体は、高度 30m 以上に達すること。機体の最高到達高度は、本会が用意する高度測定装置で判定する。 - 機体が上空で分離する場合でもその分離は高度 30m 以上に達した後でなければならない。そうでない場合は、失格となる。また、上空で分離したものは安全に地上に回収されるものでなければならない。 - 射点から 250m 以内の陸地で回収できなければ失格とする。 - データ等の報告は発射後 90 分以内とする。	- エンジンは、C5-3を1本使用する。 - 本会が用意する高度測定装置を搭載すること。 - 機体の操縦を行う場合は本別紙1の第1節「無人航空機の規制について」に従うこと。(ここでの機体は、打ち上げる機体全体を意味する。もし上空で分離する場合は、その分離された機体を意味する。) - あらかじめ定められた飛行領域(緯度、経度、高度のデータは予め大会から供給される)を逸脱してはならない。この飛行領域を逸脱した場合は、失格とするとともに、その瞬間に機体のあらゆる動作を中止して地上に安全に(降下速度 5m/s)戻すものとする。(機体の動作を途中で中断して地上に安全に戻す手段を有していることは設計計画書に明確に記入するものとする。例えば、地上からの指令によりパラシュートを開傘して地上に戻るなどを想定している。)
			この競技は導入から新しいので、以下に例を示すがこれに制限されるものではなく自由な発想に基づく提案を歓迎する。 ☆機体にテレビカメラを備えていて上昇中の様子を地上に中継する、あるいは地上に戻った時点でその動画を再生できる。 ☆機体に、加速度計、高度計等を備えていて、上昇中地上に送信する、あるいは地上に戻った時点でそのデータを取り出して解析する ☆機体は上昇した後、機体本体あるいは機体から分離したものが帰還時に制御して滑走路(あるいは滑走路に見立てた場所)に着陸する。(ペイロード有翼滞空と似ているがこの競技では滞空時間を競うものではなく、帰還の制御の確実さ、正確さなどを競う) ☆上昇した機体は何らかの方法で垂直に着地する。 ☆フライトシミュレーションとその検証打上げ実験を本大会で実施し、得られたデータとシミュレーションとの比較検討と考察を行う。 (具体的な内容) ①打上げ実験前に、選択したエンジンを組み込んだモデルロケットの飛しょうシミュレーションを行い、主な弾道パラメータに関して予測を立てておく(最高高度、速度 vs 時間の関係、高度 vs 時間の関係、弾道側視図 等)。 ②飛しょうデータの取得Ⅰ(質点並進運動):加速度(3 軸)、高度 ③飛しょうデータの取得Ⅱ(剛体 3 次元 5 自由度(0-ル方向無視)):角加速度、 ④飛しょう実験で得られた各センサからのデータに基づき、最高高度、速度 vs 時間の関係、高度 vs 時間の関係等の弾道パラメータを求めて予測値と比較、必要に応じて分析する。 評価ポイントとしては以下の点などが挙げられる。事前予測状況、打上げ実験でのデータ取得状況、打上げ実験データの分析状況など。 備考:この最後の例は、飛翔体の打上げ実験で通常行われていることですが、学生の方に体験してもらい、モデルロケットの飛しょう実験についても飛しょう現象についてより定量的な理解を深めてもらえることを期待している。	

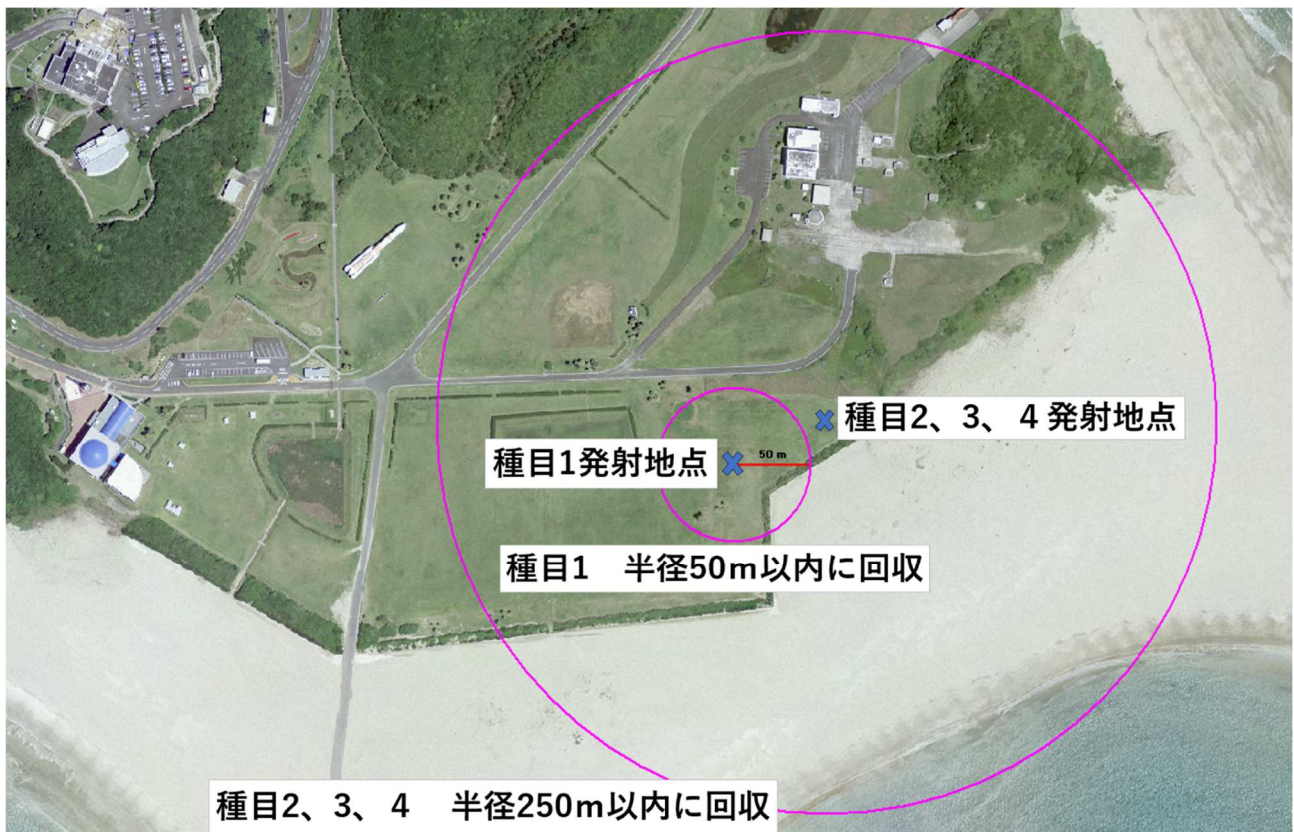
部門名	種目 番号	競技 種目	競技内容	機体条件
CanSat部門	部門共通事項		- 大型クレーン車を用いて、高度 30m 前後から遠隔操作で投下し、その後、各種目のミッションを行う。 - ミッションは投下から 20 分を限度とする。 - 風速 8m/s 以上のときは投下を行わない。 - 場外(道路等)に落下するなど、競技者の責任でなく、遂行不能と審査員が判断した場合は再投下を認める。 - 上昇から投下までの時間が一定ではないので、タイマーによる搭載機器の起動は避けることが望ましい。放出機構に格納されている時点で搭載機器が起動してしまい投下できなかった場合は、その時点で競技は終了とし、回収して再投下は行わない。	- 機体とパラシュート合わせて、直径 146mm、高さ 300mm の円筒に収まるサイズで、質量 1050g 以内。 - パラシュート、パラフォイルなどに相当する減速機構は必ず搭載する。(自由落下は避ける) - 複数の物体を投下する場合、合計で制限寸法・質量の範囲内とし、すべて安全に減速して落下すること。 - 投下せず容器内に残る装置がある場合も制限質量に含む。 - 空中で機体の操縦を行う場合は本別紙1の第1節「無人航空の規制について」に従うこと。 - 機体の色には視認し難い色は用いない。 - 火薬・燃料などの危険物、人体や環境に有害な物質を搭載しない。 - 小型の物体を放出(散布)しない。
	5	自律制御カムバック	投下後に飛行または走行して、あらかじめ指定した目標地点の近くに到着できるかを競う。 - 機体は自律制御に限る。 - 地上局からのアップリンクを行わない。 - 双方向通信でない補助信号の送出は事前相談のうえ認めることがある。(DGPSやRTK-GNSSの補正信号等) - 複数機を同時に放出、または途中で分離する場合、機体間通信は認める。 - 目的地到達のための制御を行えたか、制御履歴の確認を行う。 - 偶然に目標地点の近くに落下して好成績となるのを防ぐため、CanSat 放出後から、動作を停止するまでの制御履歴の有無の確認を行う。制御履歴に矛盾がなく、目標地点に向けて制御しているという履歴の確認ができた場合のみ順位をつける。 - 履歴の確認は専門のスタッフが行う。投下後 60 分以内にデータを提出し、履歴を示しながら、制御ができていないかの説明を行う。 - 機体とゴールまでの距離と、所要時間をポイントに換算して合計点で評価する。配点は事前に公表する。 - 機体が長かったり、引きずっているものがある場合、最後尾で計測する。 - 複数機を用いる場合、最も近い機体で計測する。	- 目標地点にはカラーコーンを用意している。 【カラーコーンの仕様】 高さ:70cm 幅:37.5cm 赤色・無地 - 本会が用意したカラーコーンに細工をしたり、独自の目標物体を設置してはならない。 - 制御履歴の確認のため、制御量(位置情報等)の計測値と、操作量(モータへの命令値)の時系列データを機体の搭載メモリに保存するか、地上局へダウンロードして記録するように設計しておくこと。 - クレーン車やテントなど会場周辺の物体の色は保証しない。誘導制御に画像を用いる場合は、色だけに頼らないアルゴリズムが望ましい。

部門名	種目 番号	競技 種目	競技内容	機体条件
CanSat 部門	6	遠隔制御カムバック	投下後に飛行または走行して、あらかじめ指定した目標地点の近くに到着できるかを競う。 - 機体は遠隔制御を認める。 - ラジオコントロール装置を用いた手動操縦 - 地上局から制御コマンドのアップリンク - インターネットを介した遠隔地からの制御 など - 遠隔側は自律/自動制御でもよい。 - 機体側の自律/自動制御と、遠隔制御のハイブリッドでもよい。 - 機体とゴールまでの距離が同じ場合、制御の難度を審査員が総合的に判断して順位を決定する。 - 機体が長かったり、引きずっているものがある場合、最後尾で計測する。 - 複数機を用いる場合、最も近い機体で計測する。 - 制御履歴の確認は必須ではないが、あれば望ましい。	- 目標地点にはカラーコーンを用意している。 【カラーコーンの仕様】 高さ:70cm 幅:37.5cm 赤色・無地 - 本会が用意したカラーコーンに細工をしたり、独自の目標物体を設置してはならない。
	7	オリジナルミッション	- CanSat を用いた独自のミッションを設定し、遂行する。 - 審査員が下記を評価する - ミッション内容 - 機体の完成度 - 競技会でのミッションの達成度	- 本会が用意したカラーコーンを使用しなくてもよい。 - 競技場内に独自の地上物の設置を、事前相談のうえ認めることがある。 - 独自の設置物は、投下機体の寸法・質量の制限に含めないが、設計計画書に設計を記載すること。

別紙2 会場地図
競技エリア(JAXA 種子島宇宙センター)



ロケット部門:機体回収範囲



【予備会場】 前之浜海浜公園



別紙3 モデルロケットの自主消費基準

モデルロケットの自主消費基準(日本モデルロケット協会HPより抜粋)

火薬類取締法施行業則第56条の3の2に指定されている、模型ロケットの消費の技術上の基準の各号が要求している主旨に準拠して、モデルロケットの本質上から特に消費場所において必要とする具体的な事項を補足して、協会の自主消費基準規程を設けた。

- 第1条 モデルロケットの消費場所においてモデルロケットの火薬類を取り扱う場合には次の各条規定を守らなければならない。
- 第2条 モデルロケットの消費場所の境界の要所には、できるだけ、モデルロケットの消費が行われていることを周知させるため『モデルロケット発射場』の標識札を掲げること。
- 第3条 火薬類を取り扱う場所の付近(発射台及び、第8条の打ち上げ準備所の警戒区域内)から20メートル以上離れた場所に、主催者が使用する目的を指定して、火気の使用を認めた場合のほかは、火気を使用しないこと。
火気の使用を認めた場合には主催者は、指定した場所に『喫煙所』、『湯沸かし所』等の標識を掲げ、火気の管理に必要な吸い殻入れ、水を入れたバケツ、消火器等を設けること。
- 第4条 モデルロケットのエンジン及び、イグナイターは、消費に直接必要あるものを運び、これ以外のものは必ず取扱従事者が個々に運搬箱に入れて打ち上げ準備所に保管し、盗難予防に留意すること。
- 第5条 酒気を帯びて火薬類を取り扱ってはならない。
- 第6条 モデルロケットのエンジン及び、イグナイターを運搬するときは、内部を二分割した運搬箱にエンジンとイグナイターを別々に離して収納する、または内部を分割しない運搬箱にエンジンとイグナイターをそれぞれ別々の小箱に入れたものを収納する、又は布で別々に互いに接触しないように包んだものを収納して静かに運搬すること。
- 第6条の2 運搬箱は、プラスチック、段ボール等の不良導性の材料を用いて作られたものを使用し、モデルロケットの火薬類のとの摩擦及び衝撃による万一の発火を避けるために金属製の材料を使用しないこと。
- 第7条 モデルロケットの消費場所には、万一の発火に備えて水を入れたバケツ等の消火用水及び、携帯用消火器等を準備しておくこと。
- 第8条 モデルロケットの消費場所には、モデルロケットのエンジン及び、イグナイターの使用前の検査並びに、イグナイターに係る導通の確認及び、打ち上げ準備のための組み込み作業及び、管理を行うための打ち上げ準備所を設けること。また打ち上げ準備所の外周に警戒区域を設けること。
- 第8条の2 モデルロケットのフライトは、発射台を設けて、必ずこれを用いること。
- 第9条 打ち上げ準備所は、発射台の中心から20メートル以上の距離を取って設けること。
- 第9条の2 打ち上げ準備所は、直射日光及び、雨露を防ぎ、工作台を備え、安全に作業と管理ができる構造のものであること。ただし小規模の場合には、エンジンを停止して、ブレーキをかけた車両内を打ち上げ準備所にする事ができる。やむを得ず斜面に設けるときは、輪止めをすること。
- 第9条の3 打ち上げ準備所に火薬類を存表している間は、取扱従事者以外の者の打ち上げ準備所の警戒区域内への立ち入り及び、盗難防止をするために常時管理者を置くこと。
- 第9条の4 打ち上げ準備所の外部には『模型ロケット』『火気厳禁』及び、打ち上げ準備所の警戒区域には、『関係者以外立入禁止』『危険区域』の警戒標識札を掲示すること。
- 第10条 モデルロケットのエンジンの20グラムを超えるものの火薬類の薬量に応じてモデルロケットの発射台と、国道、都道府県道、人の集合場所(消費場所内の集合場所を除く)建物、電線に対して確保すべき距離を規則第56条の3の2第11号の表の法定距離によるほか、20グラム以下のものの消費場所外の物件に対して確保すべき自主的距離を次表の確保すべき距離表に掲げ消費場所外の確保すべき距離をこの表により確保すること。
- 第10条の2 モデルロケットの火薬類の薬量に応じて、モデルロケットの発射台と点火操作者、発射待機者及び、見学者に対して確保すべき保安距離を次表の自主保安距離欄に掲げたので、消費場所の保安距離をこの表により確保すること。

表 (規定第10条による)保安距離及び消費場所外物件に対して確保すべき距離

火薬量 (g)	エンジン 型式	自主保安距離(m) 点火操作者 発射待機者 見学者			確保すべき距離 (m)
5.7 以下	A	5 以上	10 以上	20 以上	30 以上
10.6 以下	B	〃	〃	〃	30 以上
20 以下	C	〃	〃	〃	〃
20 超	DEFG	〃	〃	〃	60 以上
100 超	HI	10 以上	15 以上	25 以上	100 以上
450 超	J	15 以上	20 以上	30 以上	125 以上

注 本表に掲げる距離はすべて、発射台からの全方位に対して確保しなければならない距離である

- 第11条 複数の発射台を設置する必要がある場合は、発射台と他の発射台との相互の保安間隔を5メートル以上離してして設置すること。
- 第11条の2 複数の発射台を連結して1台とする集合管理構造の発射台については、連結相互の間隔は特に定めないが、他の集合管理構造の発射台との相互の保安間隔を5メートル以上離して設置すること。

- 第12条 風速8メートル以上の強風、降雨、落雷のおそれ等、天候上に著しい変化が生じた場合には、モデルロケットのフライトを一時中止し、又は、全く取りやめること。
- 第13条 モデルロケットのエンジン及び、イグナイターは、使用する前に吸湿、破損の有無を点検して、異常が認められるものは使用しないこと。
- 第13条の2 前条の点検により異常が認められたエンジン及び、イグナイターは、異常の内容を明記して打ち上げ準備所に返納すること。
- 第14条 モデルロケットのエンジン及び、イグナイターは、消費場所の発射台に取り付けるものを除いて、打ち上げ準備所以外の場所に置かないこと。
- 第14条の2 発射台に持ち込む事ができるエンジン及び、イグナイターの数量は、一回のフライトに必要な数量に限られ、これ以外にエンジン及び、イグナイターを持ち込まないこと。
- 第15条 発射台は、打ち上げの際の衝撃又は風力により倒れないよう脚部を地上に固定すること。
- 第15条の2 ランチロッドは、風向きに対応して角度を調整する場合には、垂直より30度以上広角にならないよう上方に向け、かつ打ち上げの際の衝撃又は風力により方向が変化しないよう確実に発射台に固定すること。
- 第16条 モデルロケットをフライトするには規定第10条の2に定める保安距離区分による従事者以外の者の立ち入り禁止線を、発射台から20メートル以上離して設け、立ち入り禁止線の要所には、『立入禁止』の標識を掲示すること。
- 第16条の2 モデルロケットを打ち上げる際には、発射台の状態、保安区域内立ち入り者の有無、低空の飛行物の有無を指呼して危険のないことを確認して点火すること。
又点火操作を行う者は、周囲の者が確実にわかるよう大声でカウントダウンして発射すること。
- 第17条 モデルロケットが点火されなかった場合には、再び発射ボタンを戻し、不点火を確認した後、30秒以上経過してから、点火装置のセフティキーを外し、その後、エンジン及び、イグナイターの点検を行うこと。
- 第18条 電気点火器は、使用前に電源をセットしてセフティキーを挿入し、点灯による起電力を確認するほか、点火ボタンを押して、点灯ランプの光度の変化による導通機能を確認しておくこと。
- 第19条 落雷の危険のあるときは、イグナイターをエンジンから外し、別個に隔離した状態に戻し、作業を中止すること。
- 第20条 モデルロケットのエンジン及びイグナイターは、モデルロケットの打ち上げ作業を行う当日以外には、消費場所に持ち込まないこと。
- 第21条 モデルロケットのエンジン及び、イグナイターの消費作業の終了後に、消費しないで残ったエンジン及びイグナイターは、その日のうちに法令で認められている貯蔵する場所に戻して保管すること。
- 第22条 モデルロケットの消費場所において、エンジン及びイグナイターを取り扱う従事者は、協会指定の腕章を付けること。
- 第23条 モデルロケットの電気点火器は、点火操作を行うときを徐き、常時電気点火器からセフティキー及び、電源を外し、点火ができない状態にしておくこと。
- 第23条の2 モデルロケットの発射準備作業を行う時は、セフティキーに連結しているセフティキャップを必ずランチロッドの先端に装着し、準備が終了して発射待機中は、点火作業従事者がセフティキーを必ず携帯していること。

別紙4 天候判断について

第23回種子島ロケットコンテストの天候判断について

第23回種子島ロケットコンテストの天候判断については、以下のとおりとする。

判断主体:	種子島ロケットコンテスト大会実行委員会 (参考)種子島宇宙センター 気象情報 (https://www.jaxa.jp/about/centers/tnsc/tn-weather_j.html)
判断プロセス:	全3回の天候判断を通じ、開催可否及び実施内容を決定する。
風速基準:	8m/s以上の風がある場合には、 <u>打上げを取りやめる</u> (日本モデルロケット協会自主規制)
天候基準:	小雨や一時雨では実施※状況によっては、一時中断もある

(1)第1回GO/NOGO判断(競技4日前 16:00、JAXA 担当者より大会実行委員 平山 寛氏へ週末の気象情報を伝え、平山 寛氏と JAXA 管理課長が協議の上で決定)

GO	NOGO
現時点において、天候に問題がないと判断される場合もしくは大会3日目、4日目のいずれかに開催が可能な場合 →予定どおり準備を進める	週末にかけて大荒れが見込まれる場合 →ただちに参加者及び関係者に連絡 →大会の中止

(2)第2回GO/NOGO判断(競技2日前 16:00、JAXA 担当者より大会実行委員 平山 寛氏へ週末の気象情報を伝え、平山 寛氏と JAXA 管理課長が協議の上で決定)

GO	NOGO
現時点において、天候に問題がないと判断される場合もしくは大会3日目、4日目のいずれかに開催が可能な場合 →予定どおり準備を進める →原則、通常スケジュールで実施	週末にかけて大荒れが見込まれる場合 →ただちに参加者及び関係者に連絡 →屋内イベントのみ実施

(3)第3回GO/NOGO判断(競技1日前 16:00、JAXA 担当者より事務局へ週末の気象情報を伝え、平山 寛氏と JAXA 管理課長が協議の上で決定)

GO	NOGO
現時点において、天候に問題がないと判断される場合もしくは大会3日目、4日目のいずれかに開催が可能な場合 →大会実施日のスライド可否判断 →スライド可否判断に基づき、準備を進める	週末にかけて大荒れが見込まれる場合 →ただちに参加者及び関係者に連絡 →屋内イベントスケジュールについて調整

*屋内でのイベント:エントリー受付、ロケット部門・CanSat 部門技術発表会、表彰式・技術者交流会、講演会、ワークショップ

(4)競技中判断

競技進行中も気象に関する注意喚起が発出されたら、平山 寛氏と JAXA 管理課長が協議の上で決定
→競技の中止/延期/中断→解除されたら再開

別紙5 技術発表会開催要領

第 23 回種子島ロケットコンテスト大会技術発表会開催要領

1. 日時・場所

日時:2027年3月5日(金) 9時30分~17時00分

場所:ロケット部門 福祉センター 大ホール / CanSat 部門 農業者トレーニングセンター

2. 発表要領

● 発表内容

各チームで製作した機体について、ミッション、設計、創意工夫、製作過程における苦労・失敗談などを中心にして説明を行う

● 発表形式

審査員や参加者の前で発表する形式(登壇方式)

「次発表者席」に、ひとつ前のチームの発表が始まったら着席し、待機すること。

● 発表時間

【ロケット部門(種目番号1・2・3・4)に参加するチーム】

1チーム当たりの持ち時間は6分(発表:4分/質疑応答:2分)

【CanSat 部門(種目番号5・6・7)に参加するチーム】

1チーム当たりの持ち時間は6分(発表:4分/質疑応答:2分)

● 発表のながれ

1. 司会がプログラムに沿って所属、チーム名を読み上げる。

2. 読み上げ直後から時間の計測を開始

3. 残り1分で、呼び鈴を1回鳴らし、持ち時間終了時に呼び鈴を2回鳴らす。

※2回目の呼び鈴を鳴らした後も発表を続けると、減点の対象

4. 質疑応答時間が終了すると、呼び鈴を3回鳴らすので、次発表者に速やかに交代をする

(例)司会:「〇〇大学、〇〇チーム発表をお願いします。」

計測開始→残り発表時間1分(呼び鈴1回)→発表時間終了(呼び鈴2回)→質疑応答開始

→質疑応答時間終了(呼び鈴を3回)→次発表者に交代

● 準備機材

会場では、以下のものを準備する:

液晶プロジェクタ / 接続ケーブル(HDMI) / PC 用 AC 電源 / レーザーポインタ

発表者は次のものを準備すること:

ノート PC / 外部出力接続アダプタ(HDMI)

注意事項

1. パソコン画面の外部映像出力への切替方法は、使用するパソコンのマニュアル等により事前に必ず確認をすること

2. パソコンの接続・モニタ切替・操作等はすべて発表者側で行うこと

3. パソコンの起動(あるいはスリープ状態の解除)前に液晶プロジェクタと接続しておかないと映像出力が認識されない機種(Mac OS 機の一部等)があるため、**必ず事前に操作方法を確認すること**

4. パソコンのトラブルによる発表時間の延長は認めない

5. スピーカー等による音声の接続は行わない

6. 発表中にパソコンの画面が消えないよう電源や省電力機能の設定を事前に確認しておくこと

- 依頼事項

- ・スクリーンのサイズに限りがあるため、文字サイズを大きくするなど、見やすい工夫をすること。
- ・次発表チームは、前のチームの発表が終わる前までに次発表者席にて待機すること。
- ・発表終了後は速やかにノート PC を撤収すること。

3. 審査方法

審査は当実行委員会が依頼する審査員が行う。

事前提出書類および当日のプレゼン内容から、下記の項目を中心に点数制で評価を行う。

気象条件等により競技が実施できない場合は、技術発表会の評価を基に各競技の順位を決定する。

【技術評価】(6項目)

- ・アイデアが独創的であるか
- ・設計が妥当であるか
- ・安全に配慮した設計であるか(墜落や紛失の対策を含む)
- ・技術的に高度なことにチャレンジしているか
- ・製作は丁寧にできているか
- ・試験は十分に行っているか

【プレゼン評価】(4項目)

- ・発表態度(声の大きさ。聴衆に向かって話す。)
- ・わかりやすく説明しているか
- ・発表は時間内か
- ・質疑には適切に答えられたか

4. 審査員

審査員は技術専門家で構成する。今後調整を行い、審査員を決定する。

別紙7 メーリングリスト運用規則

種子島ロケットコンテスト大会参加者向けメーリングリスト 運用規則

(利用目的)

第1条 種子島ロケットコンテスト大会参加者向けメーリングリスト(以下、「本大会参加者向けML」という)の利用は、原則として、種子島ロケットコンテスト大会(以下「本大会」という。)に関する有意義な情報を参加者に提供することを目的としたものとする。

(管理者)

第2条 本大会参加者向けMLは、本大会実行委員会が管理運営し、本大会事務局メンバーを管理者とする。

第3条 管理者は、1名を置き、本大会実行委員長が指名する。

第4条 管理者は、本大会参加者向けML利用者の登録・削除等を行う。

(利用の申請及び許可)

第5条 本大会参加者向けMLを利用する場合は、管理者に申請し、管理者が本大会実行委員及び本大会事務局メンバーであることを確認し、許可を与える。また、削除の申出により、本人確認の上、本大会参加者向けMLから削除する。

(運用規定)

第6条 本大会参加者向けMLは管理者の許可を得た者のみ利用できる。

第7条 本大会参加者向けML登録者(以下、登録者という)が発信するメッセージは、管理者がその内容を確認したうえで、登録者全員に配信する。

第8条 本大会参加者向けML登録者同士でのメッセージのやり取りは出来ないものとする。

(登録者の禁止行為)

第9条 管理者及び登録者は、本大会参加者向けMLの利用にあたり、次の各号に定める遵守事項を守らなければならない。登録者がこれらの禁止行為を行った場合、事前に通告することなく管理者が必要と判断する範囲内で、代送を拒否することができる。また、悪質と判断した場合は、本大会参加者向けMLから退会させることができる。

(1)営利を目的にしないこと

(2)個人及び団体等を誹謗中傷しないこと

(3)公序良俗に反する行為をしないこと

(4)政治活動、宗教活動に係わらないこと

(5)その他、管理者が不適切と判断する全ての行為

(苦情処理)

第10条 登録者または外部からの苦情窓口は、管理者とし、管理者が協議し対応する。

メッセージ内容に起因する苦情については、すみやかに送信者と協議し、その責任を明らかにして対処する。

附則

1 この規約は、平成27年8月4日から施行する。

第23回種子島ロケットコンテスト大会参加助成について

1. 概要

2027年3月4日から8日の期間で開催予定の第23回種子島ロケットコンテスト大会に出場する参加者に対し、大会参加に係る費用の一部を助成する。

2. 助成対象者

第23回種子島ロケットコンテスト大会の参加者で各部門いずれかの種目に出場する者。

3. 助成の条件

第23回種子島ロケットコンテスト大会の各部門いずれかの種目に出場し、大会期間中、南種子町の宿泊施設に宿泊すること。

4. 助成額

大会期間中、南種子町の宿泊施設に宿泊した参加者へ一律5,000円を助成する。

5. 助成の方法

大会終了後、チーム代表者の指定する口座へ振込みを行う。(4月中旬頃までに振込)

6. 申請の方法

専用の申請フォームより2027年3月15日(月)までに提出すること。

①南種子町内の宿泊施設に宿泊したことがわかる書類
(宿泊施設が発行した領収書など)

※①については、写しの提出可。

※申請は必ずチームごとに行うこと。

7. その他

2027年3月3日から3月7日宿泊分の宿泊を対象とする。

※3月8日のみの宿泊分については、助成対象とならないので注意すること。